

# 増田太郎さんがやって来る!



今年度の教育講演会では、盲目のミュージシャン「増田太郎さん」の講演ライブを開催します。

5歳よりヴァイオリンを始め、20歳で視力を失うが、《ヴァイオリンを弾きながら歌う》という独自のスタイルで音楽活動を展開しており、その生命力あふれる演奏は心に響くすばらしいものです。(ご本人から「増田さん」ではなく「太郎さん」と呼んで下さい、と言われていいますので、これ以降は「太郎さん」と呼ぶことにします。)太郎さんの奏でるヴァイオリンやピアノの音色、歌声、その1曲1曲には彼の思いや願いがこもっており心に深く響き渡ってきます。また、演奏の合間のトークも、時にユーモラスで、時に静かにずっしりと重く、聴く人の心に沁みてきます。太郎さんは日本各地の学校や企業、自治体等において精力的に講演ライブを続けています。ドラマやドキュメンタリー、映画の音楽等も担当しています。その太郎さんを本校にお招きして、講演ライブを開催することができる機会を得たことは、この上ない喜びです。生徒のみんなも、太郎さんの講演ライブから“大切な何か”を感じ取ってほしいと願っています。

## 増田太郎さんのプロフィール

- その生命力あふれる演奏が、フジTV《とくダネ!》をはじめ、新聞各紙に取り上げられる。
- 楽曲『雲』がNHK「みんなのうた」で放送されたほか、普天間かおりさんに提供した楽曲《花星賛歌(はなほしさんか)》がテレビ東京《美の巨人たち》のエンディングテーマに起用。
- 1年間、ニッポン放送《オールナイトニッポンレコード》にて《悩み相談コーナー》などを担当。
- 毎年クリスマスライブに「音の出る信号機」設置にむけて放送されているニッポン放送《ラジオ・チャリティ・ミュージックソン》に、2002年より出演。
- ヴァイオリニストとして、森山直太朗さんの「手紙」(シングル「さくら」にカップリング収録)ほか、様々なアーティストのレコーディングやコンサートに参加。
- 2007年、韓国人歌手、ソ・ウォノさんのアルバム「イノセント」に楽曲「花星賛歌」「Life is Beautiful」を提供ほか、同アルバム収録「千の風になって」では、アレンジとヴァイオリンを担当。
- 2008年、作品「拍手の中に『笑顔』が見える」にて、「第6回オンキョー点字作文コンクール」グランプリを受賞。(厚生省・日本盲人福祉委員会・毎日新聞社会事業団後援)
- 2009年5月、ニューヨークセントラルパークで開催された“Japan Day”にて演奏。
- 2010年、小林研一郎さん指揮《コバケンとその仲間たちオーケストラ》メンバーとして、《NHK厚生文化事業団創立50周年記念コンサート》に出演。(NHKホール、辻井信行さん他がソリストを務める。)
- 同年、《24時間テレビ》の久石譲さん指揮《TOKYOと241人のスペシャルオーケストラ》にて演奏。アメリカNYから初来日を果たした、平均年齢80歳の老舗バンド《ハーレム・ブルース&ジャズバンド》と共演(彩の国芸術劇場)。
- 2011年、東日本大震災発生直後に、楽曲《希望の景色》を発表。福島県下最大の避難所、郡山《ビッグパレット》はじめ、被災地や避難所で演奏。福島の詩人、和合亮一氏の朗読に即興でヴァイオリンをつける《詩の磔》にて共演。
- 2012年、はじめてのヴァイオリンアルバム《希望の景色》発表。同アルバム収録楽曲《Waltz Noir(ワルツノワール)》がテレビ東京《美の巨人たち》4~6月期エンディングテーマとして放映。テレビ東京にて、ドキュメンタリーが放送される(9月8日)。

- 同年7月、林真理子直木賞受賞作小西真奈美朗読のオーディオブック《京都まで》の音楽制作とヴァイオリン演奏を担当。
- 2013年、NHK ラジオ第二放送「聞いて聞かせて」にて特集番組が放送。
- 2014年、《希望の景色》収録曲《パッセのワルツ》がNHK BS プレミアム《世界ワンワンドキュ》挿入曲として放送。
- ラジオ番組「増田太郎ミュージックシュタイン」（茨城・和歌山放送、ラジオ沖縄、むさしのFM、FMたちかわ、日本福祉放送）のパーソナリティを1999年から2015年まで担当。増田太郎ホームページから聴けるインターネットラジオ「TAROWAVE」が大好評！
- 映画《くらやみ祭りの小川さん》（六角精児主演、高島礼子、柄本明出演）の映画音楽を担当
- CD《希望の景色》、《カラフルモメント～いろいろな色の毎日が、ぼくらの背中を強くしてくれる》、《生きる》、著書にエッセイ《毎日が歌っている》（すばる舎）などがある。

## 太郎さんとの出会い…

2011年、本宮第二中学校において、あの東日本大震災による地震で校舎が倒壊し、プレハブ校舎での不便な学校生活を余儀なくされていた状況の中、文化祭を郡山市のユラックス熱海で開催することになりました。学校の体育館もちろん使用できず取り壊し作業が行われていました。例年は別の日に実施していた芸術鑑賞教室を文化祭の中に組み込むことになり、どんなジャンルで、どんな人に来てもらうかを検討していたところ、東日本大震災の被災者の避難所になっていた郡山のビックパレットふくしまで6月に太郎さんが演奏し、すごく感動したとの話を知人から聞きました。すぐに太郎さんのホームページを見ました。ハンディを乗り越え、各地でコンサートや講演ライブを積極的に展開している太郎さんの姿に強い共感を持ちました。次元は違うかもしれませんが、なぜか当時の本宮二中の生徒たち、教職員の置かれている立場と重なる思いがしました。またホームページ上の『こんな時代だけど、こんな時代だからこそ、高らかに、希望を歌っていきたい』ぜひ、増田太郎をあなたの街に呼んでください。」というコピーにも心を動かされました。「生徒たちに元気・勇気を与えたい！」という思いから、当時の学校の状況と文化祭での演奏依頼をメール送信しました。すると、すぐに「ぜひ演奏させてほしい！」との返信が返って来ました。10月18日にはアメリカのニューヨークでの演奏を控え、本来であれば15日にはアメリカにいる予定でしたが、日程を調整して、文化祭での演奏を可能にしてくれたのです。本当にありがたかったです。そして、10月15日の文化祭での太郎さんは、期待通り当時の生徒たちに大いなる元気と勇気を与える素晴らしい演奏とトークを披露してくれました。1本のメールからの奇跡的な出会い…。それ以降、太郎さんの講演ライブやクリスマスライブなどにも参加させてもらっています。今は大切な友人です。前任校の日和田中でも講演ライブを開催することができました。さらに、日和田中の生徒とのコラボレーションによる『生きる』という素晴らしい楽曲も誕生しました。今回、その太郎さんをこの富中にも招くことができること、とても嬉しく思っています。



太郎さんのエッセイにこんな言葉がありました。  
「目が見えないけれど／歌い続けてきたから／見えてきた／人と響き合いながら／生きる素晴らしさ」  
目が見えないことと仲良く付き合っ、精力的にライブ活動等に取り組み、前向きに生きている太郎さんから、きっとたくさんのエネルギーをもらえんと思ひます。そして、演奏はもちろん、その生き方からも学ぶべきことはあると考えています。感動的な演奏やトークをご期待ください。太郎さんのFacebookやホームページを開くと、太郎さんの活動の様子を知ることができます。楽曲を聴くこともできます。

### 保護者の皆様へ

保護者の皆様にとりましても、きっと感動していただける講演ライブになると確信しております。是非とも多くの方々に足を運んでいただきたいと考えております。

太郎さんの講演ライブを生徒と一緒に聴いていただき、感動を共有していただければ幸いです。

